

栗山公園 だより

【問い合わせ】

栗山公園案内所 ☎ 72-0706
指定管理者
株式会社たかはしダリア

【最新情報を簡単アクセス】

★栗山公園公式ホームページ
http://t-daria.com/parktop



かわいいモルモット3匹が仲間入りです



なかよし動物園に毛の色が違う3匹のモルモットがやってきました！

毛が長めの白モルモット、茶色と白のミックスモルモット、そして、一番人気の、黒と白にお尻が茶色のモルモット。

まだ寒いのでお披露目はしていませんが、いずれふれあいもできたらいいな・・・と検討中です。

動物園スタッフに可愛がられながら、すくすく成長中です！いつも一緒に3匹。ケンカもなく、仲良しです。

会える日を楽しみにしてくださいね。

栗山公園の最新情報はこちら

★栗山公園オフィシャルホームページ

http://t-daria.com/parktop

★栗山公園オフィシャルブログ

http://ameblo.jp/kuriyamapark

★栗山公園facebook

https://www.facebook.com/kuriyamakouen/

★栗山公園メルマガ

http://t-daria.com/parktop/contact.html#magazine

No.58

こんにちは！町史編さん室です

重要な索引の作成

32年前の平成元年から5年間、私は役場で町広報を担当していました。当時、月に2回発行していたB5判の広報紙を見ますと、その時代のニュースだけでなく、町民皆さんの思い出がたくさん詰まっている紙面になっています。関係者の皆さんには、大変お世話になったことを覚えています。平成の時代におけるほんのわずかな期間でしたが、広報作成に携わることができたことを今懐かしく思い出しています。その時の経験を現在の町史編さんに役立てたいと思っています。

さて、町史の校正作業は順調に進んでおり、本文に図表や写真が入った状態で校正ができあがってきています。まだ全体の一部ではありますが、ようやく少し完成に近づいてきたなあと感じます。今後も編さん委員会と編さん室では、全体を通して文章表現の確認やより読みやすいものとなるように、刊行に向けた作業状況などを共有しながら進めていきます。



既発刊の別巻索引

町史編さん室
☎ 767820

【問い合わせ】
その中で、町史編さん作業の最後になると思われる索引の作成があります。ある程度全体の形ができあがり、ページ数の増減がなくなった作業の終盤で行います。第3巻に掲載されているどの単語・語句を抽出して索引に採用すべきなのか、また、それらを代表する最もふさわしいページはどのなのか、悩むどころです。仕上げの大変重要な作業が近づき、緊張した時を迎えています。
(衣川)

元気が一番

保健のお知らせ

【問い合わせ】町住民保健課健康推進グループ ☎ 73-2256



年に1回、歯科健診を受けていますか？

歯周病は40歳代より罹患しやすいことから、40歳・50歳・60歳・70歳・80歳になる方を対象に無料歯科健診を行っています。対象の方には、6月中旬に案内と受診券を送付します。

ぜひご利用ください。

歯周病は生活習慣病の一つです

歯周病とは歯ぐきに炎症が起き、歯を支える骨までも悪くなる状態です。

歯ぐきの赤みや腫れ、出血や口臭などの症状があり、歯垢（プラーク）という細菌の集まりが繁殖することで起こります。

また、口腔内の環境や日々の生活習慣がこの病気になる可能性を高め、全身に疾患を引き起こす恐れがあります。

歯周病の要因

口腔内の環境	生活習慣
・歯垢（プラーク） ・歯石 ・かみ合わせ など	・ストレス ・運動不足 ・喫煙 など ・食習慣 ・睡眠不足

歯周病の発生



喫煙は血管を収縮させ、血行不良を引き起こします。歯ぐきの見かけの炎症は少ないですが、歯周病菌に対する抵抗力が低下し、歯周病を重症化させます。

歯周病と関連する疾患

疾患	歯周病との関連
糖尿病	糖尿病を患っている人は、健康な人より歯周病にかかるリスクが高い。歯周病はインスリン（血糖をコントロールするホルモン）の機能を低下させ、糖尿病を悪化させる。
冠動脈疾患	歯周病による炎症が動脈硬化を進ませることがある。歯周病菌が心臓に運ばれ、炎症が起こることがある。
誤嚥性肺炎	食べ物や飲み物を飲み込むとき、誤って食道ではなく気管から肺に入ってしまうことがある。このとき、歯周病菌と一緒に入り込み感染することで肺炎を起こすことがある。
早期低体重児出産	血液中に入った歯周病菌が胎盤を通し、胎児の成長に影響することがある。

歯周病は、初期のうちは痛みなどの自覚症状が出ないため気付にくい病気です。赤みや出血といった歯と歯ぐきの状態に常に着目し、正しい歯磨きや生活習慣の見直し、年に1回は歯科健診を受けて早期発見するなど、初期の段階で治すことが大切です。